

平成29年度 小学校① 全国学力・学習状況調査 授業展開例【ひだかプラン】

国語 A 4 好きな俳句を紹介する 設問二

1 言葉のひびきや作者の季節を感じる心
2 それぞれの作者の生き方や考え
3 月の形が変化する様子や構成のくふう
4 季語の使い方や季語から想像したこと

二 中西さんのグループでは、話し合いを通して、自分たちが見つけた俳句のよさについても紹介しようとしています。紹介しようとしている内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

4

中西さんのグループでは、月の様子を選んだ俳句について、学級で話し合っています。次は、選んだ俳句について「俳句カード」と好きな俳句を紹介するための「話し合いの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましよう。

【俳句カード】

ア 雷とけてくりくりしたる夏夜かな 小林一茶
イ ひやひやと月と白し秋の風 上原先賢
ウ 季節：秋の風 季節：秋の風
エ 季節：秋の風 季節：秋の風
オ 季節：秋の風 季節：秋の風
カ 季節：秋の風 季節：秋の風
キ 季節：秋の風 季節：秋の風
ク 季節：秋の風 季節：秋の風
ケ 季節：秋の風 季節：秋の風
コ 季節：秋の風 季節：秋の風

【話し合いの様子】

北田 アの句は「くりくりしたる」の「くりくり」がおもしろいね。声に出して読んでみるよ。(音読)
中西 リズムよく読めて、読むのが楽しくなるね。
「くりくり」というのは、月の(A)を表しているのかな。春になったのがうれいのかもしれない。
本間 イの句の「ひやひや」も「くりくり」と似ているね。どちらも声に出して読んで紹介すると、俳句のよさがもっと伝わりそうだよ。(音読)
「ひやひや」と「くりくり」を声に出して読むと、ひんやりした感じがますます伝わってくるような気がした。「白」という月の色も、なんだかひんやりとした感じがするね。
青木 そうか。ふいてくる風からも、見ている月からも、ひんやりした秋を感じているんだね。
中西 作者の伝えたことって、今、青木さんが言ったことなのかもしれないね。このこともみんなに紹介しよう。

1 出題の趣旨

俳句の情景を捉えることができるかどうかをみる。

好きな俳句を学級で紹介するために、月の様子を選んだ俳句をグループで調べ、その中から選んだ俳句について考えたことを交流する場面を設定しています。声に出して読みながら、二つの句に共通する表現の特徴、作者が捉えた情景や季節感を捉えることを求めています。

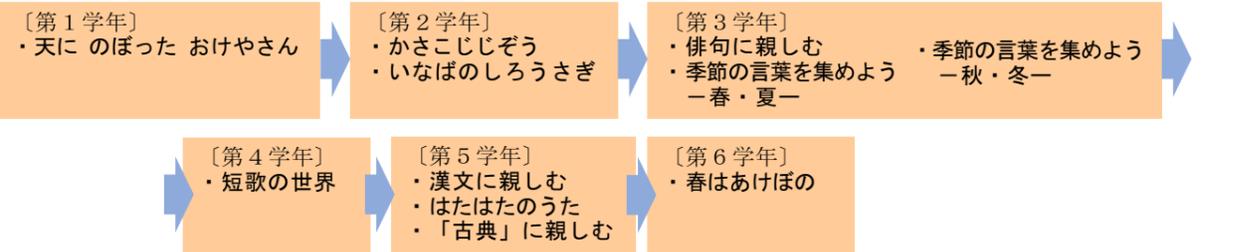
2 学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと
ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。

3 学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと
エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
〔第3学年及び第4学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
(1) ア (ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

【出題と関連する「我が国の伝統と文化」に関する教科書教材（教育出版）】



調査問題は、調査対象学年の下学年の学習内容からも出題されています。出題の趣旨を踏まえ、全ての学年で、教科書の教材分析を行い、授業改善に取り組んでみましょう。



4 授業展開例：第3学年 俳句を音読・暗唱したり好きなものを紹介したりする展開例

- 1 単元名 俳句に親しもう
- 2 単元の目標
易しい文語調の俳句について、季節や情景を思い浮かべたり、五・七・五のリズムや言葉の美しい響きを感じ取りながら音読したりすることができる。
- 3 単元の評価規準
・易しい文語調の俳句を音読したり、それらの中から自分の好きな俳句やお気に入りの言葉を選んだりして親しもうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
・俳句を読んで印象的な表現を捉えたり、伝わってくる情景を想像したりしながら読んでいく。【読む能力】
・俳句の基本的な特徴について知り、季節や情景を思い浮かべたり、五・七・五のリズムや言葉の美しい響きを感じ取りながら音読したりしている。【言語についての知識・理解・技能】

- 4 教材 「菜の花や月は東に日は西に」 与謝蕪村など易しい文語調の俳句 (季節ごとに5句くらいずつ)
- 5 単元の指導計画

| | 主な学習活動 | 指導上の留意点 |
|-------|---|---|
| 第一時 | 単元の学習課題：お気に入りの俳句「私の一句」を紹介しよう。 ○ 俳句について知り、言葉の美しい響きやリズムを感じ取りながら、俳句を音読する。 | ○ 俳句の基本的な特徴を知るとともに、声に出しながら言葉の響きやリズムを体感できるようにする。 ○ 文語調の俳句への関心を高めるため、できるだけ多く俳句に触れるようにする。 |
| 第二・三時 | ○ 音読しながら好きな俳句を選び、暗唱したり、好きなわけを述べたして紹介する。 | ○ 自分の好きな俳句やお気に入りの言葉を選ぶことを重視する。 ○ しおりづくりなどを通して、日常的に俳句に親しめるようにする。 |
| 第三時 | ○ お気に入りの俳句を書いたしおりを作る。 | |

6 本時の学習（2・3/4時間）

- ①音読しながら好きな俳句を選ぶ。
 - ・自分の好きな俳句を選んで、暗唱して紹介するというめあてを確かめる。
 - ・言葉の美しい響きや俳句のもつリズムを音読して味わう。
 - ・好きな俳句を選ぶ。
- ②選んだ俳句について、好きなわけを考え、紹介するための暗唱練習をする。
 - ・「言葉の響き」、「情景」、「描かれた人や生き物の行動」などに着目して、好きなわけやお気に入りの言葉について考える。
 - ・選んだ句を暗唱する。
- ③選んだ句を暗唱して紹介する。
 - ・選んだ俳句を暗唱し、好きなわけやお気に入りの言葉についての説明を付け加えて紹介する。
 - ・紹介を聞いた感想を交流し、同じ句を選んで、お気に入りの言葉や好きな理由が異なる場合があることに気付く。

ポイント3 「お気に入り」を見付けるための観点の明確にする

・音読したり暗唱したりする活動を通して、文語の調子に親しむとともに、季節や風情、俳句に込められた思いを思い浮かべたりすることができるようにします。
・本事例では、「C読むこと」の文学的な文章を読むことの学習を生かして、「言葉の響き」(1・2年Cア)、「行動」(1・2年Cウ)、「情景」(3・4年Cウ)といった観点を明確にして、好きな句やお気に入りの言葉を見付けることができるようにしています。
・文学的な文章を読む学習においても、既習の観点到して読むことにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることができます。

ポイント1 音読や暗唱を通して俳句に触れる機会をできるだけ多くする

・伝統的な言語文化に親しむ上では、古典に触れる機会をできるだけ多くすることが大切です。
・本事例では、限られた時数の中でも、教科書教材に加えて様々な俳句を提示し、音読したり暗唱したりすることで、繰り返しそのリズムや響きを体感できるようにしています。

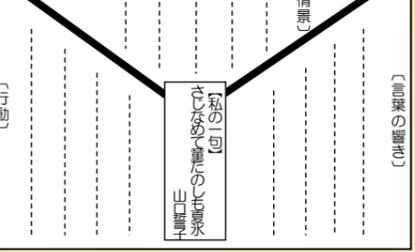


【日常的に俳句に触れるための校内展示の例】

ポイント2 自分の好きな句を選ぶ

・本事例では児童の実態に応じて、「好きな句を選ぶ」、「お気に入りの俳句を書いたしおりを作る」という学習活動を取り入れることで、より主体的に伝統的な言語文化と関わるようにしています。
・更に、小学校中学年における古典の指導に当たっては、小学校高学年や中学校第1学年でどのような古典の学習をするのかを踏まえることが重要です。小学校中学年段階では、複数の俳句を比べ、言葉のもつ豊かさや多様性を感じることができるようになります。

◆「私の一句」を選んだ理由を考えよう◆



【思考ツール（Yチャート）を活用して観点を整理したワークシート例】